|  |  |
| --- | --- |
| 第8回『よのなか科まとめ』 | 作成者：菊池萌恵  実施日：2月27日 |

**基本情報**

|  |  |
| --- | --- |
| 対象者（生徒・クラスの現状予想。テーマへの関心など。）  生徒の現状  ・前回までで作品を発表し終わり、第8回で何をやるのかわからない状態。  ・これまでの授業は「やらされた」状態であり、何のためによのなか科の授業があるのかを理解できていない、または考えようとしていない状態。  ・「俺の哲学」を発見し作品を作ったが、俺の哲学とは結局なんなのかが明確に分からない、それまでの段階でうまく深ぼれていないなどの理由で自分が作ったものに心から納得、自信が持てていない状態。  生徒の雰囲気  ・周りの雰囲気に合わせる。一人中心人物ががやる気がなさそうな雰囲気を出したら全員に広まる。逆に彼がやる気になれば全員が集中して取り組む。  ・  テーマへの関心  目的   * よのなか科の授業で学んだこと、気づいたことを振り返る。 * これからも自己を探求し続けようと思う。 | 目標（何をもって目的達成とみなすか）  ・ダイヤモンドランキングを記入し、その理由を互いに説明することができる。  ・自分にとってよのなか科とは何かを一言で書き、理由を説明することができる。  ・振り返りシートの「これからどうしていきたいか」という欄に、俺の哲学を更新し続けようと思うと書く。  準備物など  ・PC  ・接続アダプタ  ・スピーカー  ・哲学対話シート（問い、ルール、質問の仕方、問いを整理する白紙の紙）  ・よのなか科対話シート（ダイヤモンドランキング、よのなか科を一言で表す）  ・振り返りシート（生徒用、教師用）  その他（注意事項・授業にかける思いなど） |

**タイムライン（計50/50分）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 構成 | 時間（分） | 活動内容 | 各活動のねらい | 予想される生徒の様子 | 大学生の対応 | 備考 |
| 導入  ねらいの説明  グループ作り  自己紹介  （15分） | 3分  5分  2分 | * 号令 * 本日がよのなか科の最終回であることを理解する。 * 今回のねらいである「これまでのよのなか科の気づきを振り返り、これからの方向性をつかむ」を理解する。 * 本時の流れをつかむ。 * グループ作りの方法を理解する。 * 全員起立する。 * グループ作りを始める。 * グループが完成したところから着席する。 * 全員が着席し、雰囲気が落ち着いたところで自己紹介の方法を聞く。 * 自己紹介をする。 | * グループ作り：講堂で行うという利点を活かし、クラスの枠にとらわれず、自分が今日話したいと思う人とグループを組むことで、自ら話したいという意欲を高め、また、クラスではなかった新しい視点を手に入れる。 * 自己紹介：初めてグループを組むことがコミュニケーションの障害にならないよう、呼び名を決めたりはまっていることを話して少しだけ自己開示する。 | * グループ作り   + 仲の良いメンバーで組む。（特に部活のメンバーなど）   + 大学生の指示を無視して仲良しの人と離れようとしない。 | * グループ作り   + ある程度自分が担当する場所を決めておき、近くの大学生と積極的に声を掛け合いながら（〇人足りない、〇人多いなど）人数調整がスムーズにいくように心がける。   + 移動の時は大学生も制止せずに生徒と一緒に動き、グループ作りの時は積極的に声をかける   + グループの移動が必要なときは、ファシリ（菊池）が積極的に絡みに行く | ・あらかじめ大学生が担当するエリアを決めておく。 |
| 哲学対話  （30分） | 5分  5分＋1分  15分 | * 哲学対話とは何かや、実は哲学対話は身近にあるものだということを知る。 * 哲学対話のルールを、なぜそのルールが存在するのかを含め理解する。 * 哲学対話で話す問いは、自分たちから生まれた8つの問いの中から話し合いによって選ぶことを理解する。 * 大学生の進行によって、8つの問いの中から自分が興味がある問いについて話し（興味があるものとその理由を一人ずつ言っていく）、多数決で一つを決定する。 * **問いを決め終わったところから**哲学対話をする。 | * メインコンテンツでも入ってくる「対話」ができる雰囲気や気持ちを作っていく。 * なかなか関わる機会のない、大人より近いけど少し先を行く存在である大学生と哲学的な答えのない問いを一緒に考えることで、新しい刺激を受けたり自分の考えが広がる経験をすることができる。 * 自分たち側から出した問いについて考えると、自分たち側から授業の要素を生み出した感覚や、同級生から出てきたということで問い自体に親近感があるので、大学生側から出した問いよりも問いかけを受け入れやすい | * 問いを選ぶ段階で、「何でもいい」「特にない」等の反応をする。←恥ずかしい・本当に何も考えていない等 * 対話をする段階   + 沈黙になる←しゃべりたくないから。or 考えているから。   + 話が大きくそれてしまう   + ルールを守らない | * 問いを選ぶ段階   + 「どれがおもしろそう？」と問いかける。   + 大学生から興味のある問いを話し、しゃべるハードルを低くする。 * 対話をする段階   + 始めの問いかけを答えやすい問いになるように決めておく   + 生徒が答えやすい問いかけを心がける。**問いのポイント…みんなが同じことを考えられる、考えようと思える問いか（誰かが有利になる問いではないか）・元の問いから逸脱した問いではないか**   + 「沈黙もあり」という気持ちを持つ   + ルール違反は注意する。 | * 8つの問いの始めの切り口を考えておく。 * 問いの立て方シート * 問いの一覧シート * ルールシート * 話題を整理する紙 |
| よのなか科総括対話  （20分） | 5分  4分  3分  7分 | * 第1回から第7回までの授業で何をやったかを思い出す。 * よのなか科授業のダイヤモンド・ランキングを創り、その理由も考える。 * 自分にとってのよのなか科を一言で表し、その理由も考える。 * グループでランキングや一言をシェアする。 * 大学生がよのなか科を通してやりたかったこと（創られた世界があふれる中で、自分も創るということの意義と、自分を創るとはこれまでよのなか科でやってきた俺の哲学の発見と活かすことであること）を理解する。 | * ダイヤモンドランキング：ランキングをつける段階で、それぞれのよのなか科授業での気づきや学びを振り返る。 * よのなか科を一言で表す：よのなか科を自分の中で意味づける。 * シェア：相手の考え方を理解したり、自分の思考を広げたりする。 | * ダイヤモンドランキング   + 前半の授業のことは覚えていない。   + ランキングは付けたものの、理由を書くことができない。 * よのなか科を一言で表す   + 理由を書くことができない。   + ふざけた一言を書いてしまう。 * シェア   + 友達が話している時に話を聞かない   + 隠して話そうとしない | * ダイヤモンドランキング   + プリントの写真を撮っていれば写真を見るように指示をする。   + 一位の理由だけ書いてみようと指示をする * よのなか科を一言で表す   + 哲学対話の雰囲気を引き出す。（ルールシートを机の上に置いたままにするなど）   + 「正解はないからなんでもいいんだよ」という声掛けを行う * シェア   + 哲学対話のルールを適応することを伝える   + 大学生も自分にとっての一言を話し、生徒が話すハードルを下げる | ・配布プリントに全8回のプログラムを記載しておく |
| 俺の哲学  10分 | 10分 | * 今ある俺の哲学は本当にあなたの俺の哲学ですか？という問いについて、俺の哲学についてもう一度考え直す * 今回発見した俺の哲学は仮のものであり、これから、俺の哲学を活かしながら生活する中で知識や経験を積み重ねていくことで、自分を見つめなおし、俺の哲学を更新し続けていくこと、その結果、本物の俺の哲学が見つかることを理解する。 | * よのなか科がこれで終わりではなく、これからが始まりだという意識を持つ。 | * 好きなようにおしゃべりしている | * おしゃべりをしている人には話を聞くように促す | ・アンケート |
| 振り返り  5分 | 5分 | ・アンケートの記入をする |  |  | ・回収する |  |